第６回　玉手御前と俊徳丸―継母の恋



（文楽《摂州合邦辻》）

講師　：　北見　真智子 先生（大阪音楽大学講師・音楽学）

日時　：　令和８年 10 月 14 日（水）10：00～11：50

―午前：講義―

◆作品の成り立ち

人形浄瑠璃「摂州合邦辻」(初演 1773)は　作者の菅専助と若竹笛躬(ふえみ)が、中世後期から近世にかけて伝承された能「弱法師」や説経節「しんとく丸」や説経節「愛護若」などの浄土信仰を主題とした作品を、宗教的救済は残すも母と子の物語として大胆に脚色し、自己犠牲を強く描くことによりドラマチックに創作された作品である。

◆あらすじ

高安通俊の後妻となった玉手御前は家督騒動のある中、先妻の子であり許婚もいる俊徳丸に道ならぬ恋心をいだく。玉手に毒を盛られ醜い姿になり失跡した俊徳丸は　玉手の実家に匿われていたが、継子に不義をし許婚に激しく嫉妬する娘を父は怒りで刺してしまう。しかし玉手は命尽きる前、俊徳丸を世襲争いから逃れ、継子二人の命を救う企てであったことを父は知った。玉手は自らの生血を俊徳丸に飲ませて病を救い、絶命する。

◆ビデオ鑑賞＝人形浄瑠璃「摂州合邦辻」の３場面

①玉手の帰還

玉手は合邦の家に戻り木戸の前で「かかさん、家に入れて下され‥」と願う声に母はたまらず入れてやった。

②玉手の告白

怒る父は玉手に刀で刺すが、玉手は苦しい息のもと今までのことを打ち明ける。

③救済と祈り

消えゆく命の玉手に母は「南無阿弥陀仏」と念仏を唱える中、玉手は鳩尾から溢れる血を俊徳丸に飲ませ落命する。

―午後：クラス活動―

◆ビデオ鑑賞＝野村萬斎企画の狂言２作

①狂言「鏡冠者」約 30 分

野村萬斎、高野和徳、深田博治 etc.

②狂言「節分」　約 30 分

野村萬斎、高野和徳 etc.

＜追加資料＞

説教節≪愛護若≫	**文楽≪摂州合邦辻≫**
継母が継子に恋慕する	継母が継子に恋慕する
継子が拒絶する	俊徳丸が拒絶する
継母の行動が悲劇を招く	玉手御前の救済の計略が物語を動かす
貴種流離譚	俊徳丸も流離の身となる

―後記―

先生が言われていたように、玉手は関わる人々に対して本当に深い愛と思いからの行動なのか、それとも実は俊徳丸を愛する気持ちが執拗で過激な行動になっていったのか‥。

どこまで人間の感情の複雑さ奥深さがあるのだろうかと、ミステリアスでテンポのいい物語の展開によってより考えさせられる作品でした。

四班広報

１０月１４日【水】　午後の自主活動

伝統工芸「絞り染め」

10 月 14 日　14 時から 17 時　京都五条　絞り染め工房 ANDO

午前の講義が終わって有志 8 名が JR 茨木駅から京都駅で地下鉄に乗り換えて五条駅改札で若村先生と合流して ANDO に向かう。

着くとまず好きな色と柄をみんなとわいわい言いながら決める。

絞り染めの伝統工芸士の方とお店のスタッフに教えて頂きながら絞っていく。

絞りが巻き終わったらいよいよ染める。

染め液を、世界に一つとない私の T シャツの出来上がりを、思い浮かべながら注ぐ、そのわくわく感・・・

後はお店の方に任せて仕事場を案内して頂く、

もちろんコーヒータイムも・・・

そうこうしているうちに乾燥も終わりできあがった作品がみんなの前に・・・

またまたみんなの声、わぁすてき！！　きれい！！などなど

自分の作品を持ってみんなでパチリ



日本の伝統工芸に触れる贅沢時間だった！　　**（2 班　黒木百合子）**